



- 地域別CO₂排出量の推移
- オフィスにおけるCO₂排出量の推移

地球温暖化防止

温室効果ガスの排出削減が、ますます求められています。

ムラタでは温室効果ガスの排出量（絶対量）、そして実質生産高原単位の削減を重要テーマとして、

ムラタグループ全体で温暖化防止に取り組んでいます。

CO₂排出量の削減

2008年度の状況

2008年度、ムラタの国内グループにおける温室効果ガス排出量は、前年度比で約7,800トン減少しました。これは、省エネ取り組みの継続的な実施とともに、世界経済の停滞により生産量自体が減少したためです。一方実質生産高原単位※は、1990年度比37%削減となり、目標である35%以

上削減は達成したものの、前年度の49%からは悪化しています。これは当社の生産工場の多くが北陸地区にあり、電力供給元である北陸電力の排出係数※が前年の0.457kg-CO₂/kWhから0.555kg-CO₂/kWhに増加したことが大きく影響したためと推定しています。

Memo

※実質生産高原単位とは？

生産高(金額)を、日銀が公表している国内企業物価指数(電子部品・デバイス)で補正した実質生産高あたりのCO₂排出量を表す値です。一定量(金額)の製品を生産する過程で、どれだけの温室効果ガスを排出したかを示すものです。

※電力会社の排出係数とは？

当社は、国の温室効果ガス排出量の算定・報告・公表制度に従い、環境省が公表する各電力会社の単位電力あたりの排出係数を用いて、排出量を算定しています。

外部の専門家とのコラボレーションによる省エネ診断を実施

ムラタは、これまで社内の省エネチームによる工場省エネ診断を継続してきました。2008年度は、新たに、電力会社や空調メーカーなど外部のエネルギー専

門家の協力による工場省エネ診断を実施しています。外部専門家の新たな視点と、アイデアを加えた省エネ、温暖化防止施策にも積極的に実施しています。



省エネ診断

排出量削減への取り組み

2008年度は温室効果ガスの排出量が減少しましたが、これを一過性なものとしないため、経営層において温室効果ガス削減について議論を

進めています。2009年度は、排出量の削減目標とその取り組み内容を決定し、より強力に施策を実施していく予定です。

省エネルギーを実現する生産設備を開発

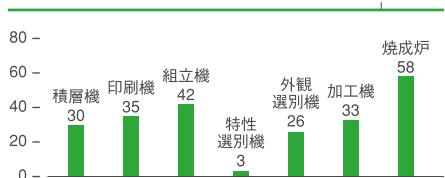
ムラタでは「できるだけ少ないエネルギー、小さい面積で生産できる」設備を開発しています。従来設備をベンチマークとして単位製造製品数あたりの消費エネルギーを比較すると、2004年度以降導入の設備はすべて省エネルギー・省スペースを実現しています。2008年度は、5機種の設備を新規開発し、省エネ型設備計160台を工場に導入しました。これによって、約2,800トンのCO₂排出量を削減しました。その他、国内CO₂排出量上位2事業所において、生産設備の省エネ設計教育を実施しました。

2009年度以降は①焼成炉の効率アップ、②ムラタの主力製品生産設備(積層機)の超合理化(従

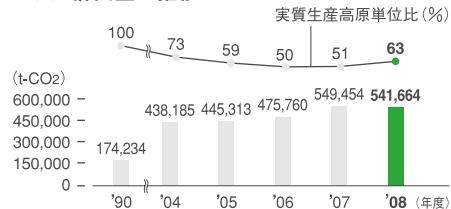
来機の75%省エネ)、③乾燥設備の廃熱利用(従来機の50%省エネ)、④設備設計審査時の省エネチェック体制強化、⑤国内事業所での省エネ設計教育、の5つの目標を掲げ、省エネルギー設備の開発を進めていきます。

■開発設備の省エネルギー性

消費エネルギーの対ベンチマーク比率
(消費エネルギー原単位比較)



■CO₂排出量の推移



Message 温室効果ガスの排出量削減への挑戦

小松村田製作所では、省エネ設備の導入、燃料転換、廃熱の有効利用などによって、CO₂排出量原単位を前年度に比べて11%削減することができました。また、ボイラー燃焼で発生するCO₂排出量を削減するために、A重油から電力への燃料転換を進めた結果、従来の燃料系熱源システムと比べ、CO₂排出量が63%まで削減できる見込みです。

これからも地道な削減努力を重ねつつ、継続的にこのような成果を収めることで、温室効果ガスの排出量削減に挑戦します。



株式会社小松村田製作所
管理部 環境管理課
坂田 佳昭

